

このたびは、弊社製品をご採用いただきまして誠にありがとうございます。
 施工前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しく施工してください。また、
 施工後は施主様に商品説明を行ってください。
 尚、保守・点検の際も活用しますので、施工説明書・取扱説明書・仕様書は
 所定欄に施工業者名を記入の上、まとめて施主様にお渡しください。

安全上のご注意

施工、使用（操作・保守・点検）の前に必ずこの取扱説明書とその他の注意書きをすべて熟読し、
 正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用
 ください。この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。

	危険	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
	注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害を受ける可能性が想定される場合、及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。
 いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

■ 施工上の注意

危険

有資格者以外の方の電気工事は、法律で禁止されています。

感電注意

火災の危険性

必ずアース線を接続せよ

感電の恐れがあります。

- ・ 通電中は感電の恐れがありますので、キュービクルの内部に入らないでください。
- ・ 工事・点検時は引込開閉器を必ず切ってください。感電及び短絡による人身事故の恐れがあります。
- ・ 接地線は、接地端子に確実に接続してください。接地工事に不備があると感電の恐れがあります。

発火、感電、故障の原因になります。

- ・ 正しい配線、接続工事を行ってください。
- ・ 工事は、電源や信号をOFF状態にして作業を行ってください。遠方操作信号や連動回路により突然動作することがあります。
- ・ 配線は適合した電線に圧着端子を使用し、導電部の接続ねじは表1の推奨締付トルクまたは機器推奨締付トルクで確実に締付けてください。

発火により火災となる恐れがあります。

- ・ 関連法規を遵守して、正しい工事を行ってください。
- ・ 配線工事完了時、全ての導電部のねじを増締めしてください。導電部のねじが緩んでいると発熱します。

初回増締め実施日： 年 月 日

表1. 推奨締付トルク

ねじの呼び径	締付トルク N・m
M4	1.2 ~ 1.6
M5 ※1	2.0 ~ 2.5
M6	3.0 ~ 4.0
M8 ※2	5.5 ~ 7.0
M10 ※3	13.0 ~ 20.0
M12 ※3	40.0 ~ 50.0

注) ※1 M5 ソルダレス端子は、1.6~2.0N・m
 ※2 ドライバー以外の工具で締付けるねじは 8.0~13.0N・m
 ※3 ドライバー以外の工具で締付けるねじに適用する。



注意

けがの恐れがあります。

- ・キュービクルの移送、据付け時等の吊上げ作業は、正しい方法及び手順を守って行ってください。落下、転倒によるけがの恐れがあります。

性能、機能を損なう場合があります。下記の条件を守ってご使用ください。

- ・高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃等の環境は避けて設置してください。
- ・輸送、吊上げ作業は落下等させないように、静かに行ってください。
- ・無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いかねます。改造の必要がある場合は、必ず納入メーカーにご相談ください。
- ・箱体・チャンネルベースは取付け面の水平を確認し、図面に指定されている全ての箇所を適正な太さのボルトで堅牢に取付けてください。
- ・連結箇所の多い多面体タイプの場合、図面上の寸法より若干大きくなる場合があります。設置時は、基礎ボルトの位置、特に架台を使用される場合はご配慮ください。
- ・保護継電器等の保護装置は、施工完了後正しく整定してください。
- ・サーモスタット・タイマ等の機器の設定は、関連要素を確認のうえ、正しく設定してください。設定が間違っていると動作不良や故障の原因になります。
- ・施工及び加工時に取外した端子カバー、保護カバー、相間バリヤ等は必ず元の位置に戻してください。
- ・不具合が発生した場合は、速やかに電気主任技術者または専門業者に連絡してください。

故障、発熱の原因になります。

- ・通風口はふさがらないでください。また、安全のため十分な保守・点検スペースを確保してください。

故障、感電の原因になります。

- ・キュービクルへの通線穴加工時、収納機器に切粉やゴミがかからないよう養生等の処理を行ってください。
- ・線間での絶縁抵抗測定は、漏電ブレーカ、単3中性線欠相保護付ブレーカ、操作回路等、不具合の生じる恐れのある機器（回路）を外して電線間で行ってください。

設置環境は下記条件でご使用ください。

- ・屋内等のように密閉された場所でのご使用の場合は、周囲温度が下記範囲内となるように換気等に十分ご注意ください。

屋内用の場合	屋外用の場合
<ul style="list-style-type: none"> ・周囲温度：-5 ~ 40℃かつ、24時間の平均値 35℃以下。 ・標高：1000m以下。 ・結露は収納機器に影響がない程度とする。 ・周囲の空気の高湿、多湿、じんあい、煙、腐食性または可燃性の気体・蒸気、及び塩分による汚染が発生しない場所。 ・キュービクルに対して、外部に起因する振動がない場所。 ・収納機器の操作が容易にできる場所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲温度：-20 ~ 40℃かつ、24時間の平均値 35℃以下。 ・標高：1000m以下。 ・結露は収納機器に影響がない程度とする。 ・周囲の空気の高湿、多湿、じんあい、煙、腐食性または可燃性の気体・蒸気、及び塩分による汚染が発生しない場所。 ・氷雪によりドアの開閉に影響が出ない場所。 ・キュービクルに対して、外部に起因する振動がない場所。 ・収納機器の操作が容易にできる場所。

電気工事業者様へ

- (1) 工事についての詳しい内容は、施工説明書をお読みください。
- (2) 施工終了後、電気工事業者名欄にご記入ください。

施工電気工事業者名

TEL

施工年月日 年 月 日

点検時に記入してください。

点検年月日

年 月 日 年 月 日 年 月 日
 年 月 日 年 月 日 年 月 日

日 東 工 業 株 式 会 社

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
(この説明書は、必ず保管しておいてください。)

安全上のご注意

施工、使用（操作・保守・点検）の前に必ずこの取扱説明書とその他の注意書きをすべて熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。

	危険	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
	注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害を受ける可能性が想定される場合、及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

■ 使用上の注意

危険	
	有資格者以外の方の電気工事は、法律で禁止されています。
<p> 感電注意</p> <p> 火災の危険性</p>	<p>感電の恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 扉を開いて内部点検・操作は、電気工事業者または専門知識のある方以外は行わないでください。 ・ 扉を開いて内部点検・操作は、必ず開けた扉を固定してから行ってください。突風等により扉に押され感電する危険があります。 ・ 工事・点検時は引込開閉器を必ず切ってください。感電及び短絡による人身事故の恐れがあります。 ・ 通電中は、保護板をはずさないでください。 ・ 通電中は、キュービクルの内部に入らないでください。 ・ 扉は必ず施錠し、鍵は関係者以外持ち出せないように管理してください。 <p>人身事故、やけどの恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 断路器（DS）を操作する場合は、必ず遮断器（VCB）をOFFにしてから行ってください。 <p>人身事故、感電の原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電源や信号をOFF状態にして作業を行ってください。遠方操作信号や連動回路により突然動作する場合があります。 ・ 換気扇等の回転体には、手を触れないでください。 ・ 漏電ブレーカがある場合、保守点検時にはテストボタンによる動作確認をしてください。 ・ 定期的に電気工事業者または専門知識のある方に点検を依頼してください。点検を行わないと、事故の原因になります。 <p>発火により火災となる恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導電部の接続ねじは、施工説明書 表 1 推奨締付トルクまたは機器推奨締付トルクで定期的に増締めしてください。

注意

性能、機能を損なう場合があります。下記の条件を守ってご使用ください。

- ・ 保護継電器等の保護装置は、施工完了後正しく整定してください。
- ・ 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いかねます。改造の必要がある場合は、必ず納入メーカーにご相談ください。
- ・ 保守点検時に取外した端子カバー、保護カバー、相間バリア等は必ず元の位置に戻してください。
- ・ 通風口の付近に物を置かないでください。故障・発熱の原因になります。なお、規定された十分な保守、点検スペースを確保してください。
- ・ 点検・試験時は機器のインターロック等が強制解除されており危険です。試験モードでONにしたまま現場を離れないでください。試験完了後は、必ず所定のモードに正しく設定してください。
- ・ ヒューズが溶断した場合は、その原因を除いた後、必ず同容量、同型式のものと交換してください。機器損傷の恐れがあります。また、同一回路で複数使用のヒューズは1本の溶断でも全数取替えてください。
- ・ 使用機器の中には有害物質を含む場合もあります。廃棄には十分注意してください。
- ・ 線間での絶縁抵抗測定は、漏電ブレーカ、単3中性線欠相保護付ブレーカ、操作回路等、不具合の生じる恐れのある機器（回路）を外して電線間で行ってください。

やけどの恐れがあります。

- ・ ヒューズ溶断後はヒューズ本体が高温になっている場合があります。交換の際はご注意ください。

定期点検を実施してください。

- ・ 定期的に交換する必要がある機器、例えばバッテリー等は適宜交換してください。
- ・ 碍子等の絶縁材料及び機器の絶縁部分は定期的に清掃してください。
- ・ 遮断器等、定期的な保守点検の必要な機器は、機器取扱説明書に従って行ってください。

★ 警告表示がかすれたり、破損した場合は、警告ラベルの発注をお願いします。
仕様等、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

また、ご不明な点がありましたら弊社お客様相談室にお問い合わせください。この取扱説明書の内容は2010年01月現在のものです。

B984148000

 **日東工業株式会社**

© NITTO KOGYO CORPORATION

お客様相談室/愛知県愛知郡長久手町蟹原 2201 番地
TEL (0561) 64-0152
<http://www.nito.co.jp>